

株式会社横浜アリーナ

第33期 事業報告

2017年（平成29年） 4月 1日から
2018年（平成30年） 3月31日まで

— 目次 —

- 1) 事業報告
- 2) イベント分野別稼働実績

事業報告

平成29年4月 1日から
平成30年3月31日まで

株式会社横浜アリーナ

事業の経過および成果

当社は平成29年3月28日付けで、キリンホールディングス株式会社から西武鉄道株式会社へ親会社に変更となりました。この親会社の異動に伴い、株式会社西武ホールディングス及び西武鉄道株式会社の決算日と統一するために、前事業年度より決算日を12月31日から3月31日に変更しました。従って、当事業年度は、4月1日から3月31日にかけての12か月であり、前事業年度(平成29年1月1日から3月31日の3か月)と比較すると、収益及び費用の計上は大幅に増加しております。

平成29年度の業績につきましては、稼働日数は337日、稼働率は92.3%となりました。当期の来場者数は、約218万人となり、平成元年4月の開業からの来場者数は累計で約4,737万人に達しました。

そして施設の安全安心に向けた取り組みを継続すると同時に、PSI(Positive and Speedy with Integrity)プロジェクトを中心に、平成27年度に策定したコーポレートメッセージ「その思い、つながる。」をはじめとする企業理念・ミッション等の浸透策・アクティブな企業風土の実現に向けた取り組みや、広報活動、および地域に根差した活動を、前期に引き続き実施してまいりました。

業績につきましては、売上高が2,733百万円(前期624百万円、対前期337.8%増)、売上原価は948百万円(前期211百万円、対前期349.2%増)、販売費及び一般管理費は、349百万円(前期72百万円、対前期379.5%増)となりました。

これらにより当期の損益は、1,435百万円(前期340百万円、対前期321.7%増)を計上し、経常利益では1,452百万円(前期342百万円、対前期324.1%増)、当期純利益1,011百万円(前期29百万円、対前期339.8%増)となり、開業以来、過去最高益を達成しました。

以上

2017年4～2018年3月 イベント分野別稼働実績

2017年度 実績		ショー コンサート	集会 式典	展示 物販	スポーツ	合計	稼働率 (%)
2017年4月 }	件数	83	21	6	2	112	92.3%
	日数	262	55	18	2	337	
2018年3月	本番日	156	25	12	2	195	
	構成比	77.7%	16.3%	5.3%	0.6%	100.0%	

(参考)

対前年 同時期 増減数	件数	22	10	1	△1	32	2015年4月 } 2016年3月 稼働率	
	日数	62	28	3	△8	85		23.3%
	本番日	36	12	2	△3	47		
	構成比	-1.6%	5.6%	-0.6%	-3.4%	0.0%		
2016年4月 }	件数	61	11	5	3	80	70.8%	
	日数	200	27	15	10	252		69.0%
2017年3月 (注1)	本番日	120	13	10	5	148	(注2)	
	構成比	79.4%	10.7%	6.0%	4.0%	100.0%		(注3)

(注1) 2016年4月～6月までは大規模改修工事に伴う87日の休館を含みます。

(注2) 大規模改修工事に伴う休館日数を除外した場合は、稼働率90.6%となります。

(注3) 2015年4月～2016年3月までを対象とし、2016年1月～3月までのうち大規模改修工事に伴う80日の休館を含みません。大規模改修工事に伴う休館日数を除外した場合は、稼働率90.6%となります。